

第54回全日本実業団ハーフマラソン大会

【出場結果】

実施日：2月8日（日）

コース：山口循環ハーフマラソンコース（維新みらいふスタジアム スタート・フィニッシュ）

出場者：下田 大翔 救仁郷 弓揮

リザルト：

氏名	下田	救仁郷
種目	ハーフマラソン	
タイム	1:02'45" (自己ベスト&新電元記録)	1:05'11"
順位	63位/220名	134位/220名

【レポート】

2月に入り、いよいよ2025年度のシーズンも残り僅かとなってきました。

チームとしての駅伝は、先日の埼玉県駅伝をもって終了となりますが、選手達はフルマラソンやハーフマラソンの出場を目指してトレーニングを継続しています。

今回は、山口県山口市で開催された第54回全日本実業団ハーフマラソン大会に下田と救仁郷の2名の新人がエントリーし、駅伝で好走を見せている下田は自己ベストの更新を、故障明けの救仁郷は1km3分10秒切りを目標にレースに臨みました。

当日は、前日から降り続く雪に加えて、強風が吹き荒れる厳しいコンディションの中でレースはスタートしました。



5 km地点を積極的に集団の前で走る下田

ShinDengen

ハーフマラソンのコースは、序盤の4～5 kmにかけて上り坂となりますが、6 km過ぎからは下り基調のコースとなり、序盤の上り坂さえ攻略出来れば記録が出やすいコースとなります。

下田は、5 kmを15分前後で入る想定をしておりましたが、14分46秒と予想以上のタイムで通過し、救仁郷も表情に余裕を残しつつ15分35秒で通過しました。



1 km 3分10秒切りを意識して走る救仁郷

集団の流れに乗って走る下田は、6 km過ぎから続く下り坂で10kmを29分22秒と、大幅な自己記録更新も視野に入る好ラップで通過し、続く救仁郷も30分43秒と、最初の5 kmから大幅にペースを上げて通過し好記録の期待が高まりました。



雪と風が吹き荒れる中、好走を見せる下田

15 kmを過ぎると、強い向かい風の中、選手達は皆ペースを落としますが、下田は集団の中で他の選手を上手く利用してペースを落とすことなく競技場に入ると、切れ味のある鋭いラストスパートを見せ、自己ベストと新電元記録を更新する1時間2分45秒でゴールしました。

イーブンペースを刻む救仁郷も最後まで一定のペースを刻み、目標を上回る1時間5分11秒でのゴールとなりました。



【総評】

当社の次世代を担う下田と救仁郷の2名の新人が、事前に掲げた目標をしっかりとクリアしてチームに勢いを与えてくれました。

特に奥むさし駅伝、埼玉県駅伝ともに好走を見せた下田は3週連続のレースの中で、1時間3分52秒の自己記録を1分以上更新する1時間2分45秒という最高の走りを披露し、エースの自覚が芽生えてきた感触を得られました。

また、今回は故障明けの状態で出場した救仁郷も、自己ベスト記録は1時間2分24秒という素晴らしいタイムを持っていますので、このまま2人の若手が順調に成長し、来年度は更にチームを盛り上げてくれると確信しています。

次のレースは2月22日に行われる大阪マラソンに坪井が、3月1日に行われる東京マラソンに加藤と親崎がエリートランナー枠で出場しますので、若手の走りに負けないベテラン勢の熱い走りに期待します。

引き続きまして、皆さまの温かいご声援を宜しくお願いいたします。